慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	レヴィナス哲学の総合的再検討と国際的研究基盤の構築
Sub Title	Comprehensive reexamination of Levinas' philosophy and construction of an international research network
Author	村上, 暁子(Murakami, Akiko) 平石, 晃樹(Hiraishi, Koki) 平岡, 紘(Hiraoka, Hiroshi) 馬場, 智一(Baba, Tomokazu) 服部, 敬弘(Hattori, Yukihiro) 小手川, 正二郎(Kotegawa, Shojiro) 渡名喜, 庸哲(Tonaki, Yotetsu) 長坂, 真澄(Nagasaka, Masumi) 藤岡, 俊博(Fujioka, Toshihiro) 佐藤, 香織(Sato, Kaori) 石井, 雅巳(Ishii, Masami) 犬飼, 智仁(Inukai, Tomohiro)
Publisher	
Publication year	2022
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2021.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究は、フランスの哲学者エマニュエル・レヴィナスの哲学を新資料の調査や分析を通じて総合的に再検討するとともに、その知見を広く世界に発信していくための国際的な研究基盤の構築を目的としたものである。研究成果については、2019年に東京および京都で開催した国際シンポジウム「個と普遍 エマニュエル・レヴィナスと極東の思考」や、レヴィナス協会主催の年次大会を通じて公表した。3年間の事業期間を通して、哲学や倫理学のみならず、隣接する諸分野の研究にも貢献しうる研究成果を達成することができた。 The purpose of this study was to reexamine comprehensively the philosophy of French philosopher Emmanuel Levinas through research and analysis of new materials and to build an international research network in order to disseminate its research findings widely throughout the world. The research results were made public through an international symposium "Singular and Universal: Emmanuel Levinas and Far Eastern Thought" held in 2019 at Tokyo and Kyoto and annual conferences organized by the Levinas Society. Throughout the three years of the project, these research results have contributed not only to philosophy and ethics, but also to research in adjacent fields.
Notes	研究種目 : 基盤研究 (C) (一般) 研究期間 : 2019 ~ 2021 課題番号 : 19K00040 研究分野 : 倫理学
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_19K00040seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ００００４０

研究課題名（和文）レヴィナス哲学の総合的再検討と国際的研究基盤の構築

研究課題名（英文）Comprehensive Reexamination of Levinas' Philosophy and Construction of an International Research Network

研究代表者
村上　暁子（MURAKAMI, Akiko）

慶應義塾大学・文学部（三田）・助教

研究者番号：１０８２３７３４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、フランスの哲学者エマニュエル・レヴィナスの哲学を新資料の調査や分析を通じて総合的に再検討するとともに、その知見を広く世界に発信していくための国際的な研究基盤の構築を目的としたものである。研究成果については、2019年に東京および京都で開催した国際シンポジウム「個と普遍　エマニュエル・レヴィナスと極東の思考」や、レヴィナス協会主催の年次大会を通じて公表した。3年間の事業期間を通して、哲学や倫理学のみならず、隣接する諸分野の研究にも貢献しうる研究成果を達成することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　日本のレヴィナス研究は1980年代から盛んになり、現在ではその著作のほぼすべてが邦訳されるだけでなく、専門研究や一般書も数多く出版されており、研究状況においても一般的認知においても、すでに一定の水準が達成されている。しかし、近年の新資料の公刊や、欧米圏での国際的な研究展開、さらには隣接分野からの参照の増加といった状況下で、新たな基盤的研究の構築および学際的な研究組織の形成の必要性はむしろ強まっている。本研究は、若手研究者から構成されるレヴィナス協会を中心に、レヴィナス研究を学術的に刷新すると同時に、国内外への成果公表を通じて、研究の社会的還元の面でも大きな意義をもつものである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to reexamine comprehensively the philosophy of French philosopher Emmanuel Levinas through research and analysis of new materials and to build an international research network in order to disseminate its research findings widely throughout the world. The research results were made public through an international symposium “Singular and Universal: Emmanuel Levinas and Far Eastern Thought” held in 2019 at Tokyo and Kyoto and annual conferences organized by the Levinas Society. Throughout the three years of the project, these research results have contributed not only to philosophy and ethics, but also to research in adjacent fields.

研究分野：倫理学

キーワード：社会思想　思想史　ユダヤ思想　教育哲学　フェミニズム　倫理学　現象学　レヴィナス

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（1）フランスの哲学者エマニュエル・レヴィナスの思想は、ジャック・デリダの先駆的な論考「暴力と形而上学」（1964 年）を例外として、おもに 1980 年代から世界で盛んに研究されるようになった。日本でも、レヴィナスの主要著作である『全体性と無限』（1961 年）と『存在するとは別の仕方で　あるいは存在の彼方へ』（1974 年）が、それぞれ 1989 年と 1990 年に日本語で紹介されたのを皮切りに、現在ではその著作のほぼすべてが邦訳されるだけでなく、レヴィナスを主題とする専門研究や一般書も数多く出版されており、研究状況はすでに一定以上の水準に達し、レヴィナスの社会的な認知も十分に進んでいると言える。

（2）しかし、フランスで 2009 年に刊行が始まった『レヴィナス著作集』などの新資料、フランスを中心とする国際レヴィナス研究協会（SIREL）や北米レヴィナス学会（NALS）に代表される国際的な研究展開、さらには隣接する諸分野からのレヴィナスへの参照の増加といった状況のなかで、従来のレヴィナス研究に立脚しつつも、こうした新しい動向を踏まえた基盤的研究の更新ならびに、国際的かつ学際的な研究ネットワークの構築が急務となっていた。

（3）上述の新しい研究傾向を踏まえて、レヴィナスの思想の全体像の刷新を要求する解釈上の進展も見られる。これまでの研究では、レヴィナスの思想の中心概念である「倫理」や「顔」を軸に、いくつかの個別の問題に焦点を合わせた主題的研究や、ハイデガーやデリダといったレヴィナスと関係の深い哲学者との比較研究などが主流であった。しかし、レヴィナスが第二次世界大戦中に捕虜収容所で執筆したメモや、戦後におこなった未公刊の講義録などの新資料により、以下の諸点が次第に明らかになってきた。
①従来、周縁的な役割を与えられてきた「エロス」の問題が、1930 年代から 40 年代のレヴィナスの思想形成においてはむしろ中心的な位置を占めていた。
②フランツ・ローゼンツヴァイクをはじめとするユダヤ思想との関連がこの時期からすでに現れていた。
③1950 年代から 60 年代にかけての未公刊の講義録や雑記では、「音の現象学」や「隠喩」といった、これまで知られてこなかった問題系が論じられていた。
　これらの新しい研究素材の出現と対応する形で、従来の研究において前景を占めていたレヴィナスの倫理思想の中心的位置をいわば相対化し、その思想を総合的に再検討することが求められていた。

２．研究の目的

　以上の背景にもとづく本研究の目的は、レヴィナスの哲学の総合的な再検討により、日本におけるレヴィナス哲学の全体像を更新し、その成果を広く世界に発信しつつ、さらなる研究協力の推進のための国際的・学術的な研究基盤を形成することである。とりわけ以下の細目についての研究をおこなった。

（1）新資料・未翻訳資料の整理によるレヴィナス哲学の全容の再検討
（2）新たな哲学史・思想史的な整理
（3）学際的・領域横断的研究の土台となるテーマ研究
（4）国際的研究基盤の構築

３．研究の方法

　本研究は、レヴィナス協会の中心的なメンバーによる共同研究である。レヴィナス協会は、2010 年から活動するレヴィナス研究会を 2018 年に改組し、学会組織としてあらたに立ち上げた団体である。各メンバーの専門領域は、哲学（哲学史・現象学）、倫理学、ユダヤ思想、社会思想など、多様な分野に広がっている。また、各自がフランスなどの海外の大学での研究経歴を有し、その多くが海外の大学で博士号を取得している。各メンバーの所属大学も多岐にわたっており、国内外での豊富な研究ネットワークを活かした研究が可能であった。
　研究の実施にあたっては、各メンバーが下記の役割分担に従って研究を進め、定期的に口頭発表や論文の形で成果を発表した。その際に、上記レヴィナス協会の年次学術大会や、研究ジャーナル『レヴィナス研究』といった媒体を積極的に活用した。学術大会には会員外の一般参加も可能であり、また、オンラインジャーナルである『レヴィナス研究』はレヴィナス協会のホームページでその全文を公開している。すでに準備が整っていたこれらの機会や媒体を利用することで、広く社会に発信するためのスムーズな成果公表が可能となった。
　研究開始時における各メンバーの担当分野および役割分担は以下のとおりである。担当分野

に関しては、研究の進捗状況および展開のなかで、必要に応じて見直しをおこなっている。

村上暁子（研究代表者）:「倫理学」／研究の総括およびコーディネート
渡名喜庸哲:「社会思想」／研究代表者のサポート
小手川正二郎:「フェミニズム」／英語圏の研究者との交渉
長坂真澄:「近代哲学史」／SIREL との交渉
服部敬弘:「現代フランス哲学」／関西圏でのコーディネート
馬場智一:「近現代ユダヤ思想」
平石晃樹:「教育学」
平岡紘:「現象学」
藤岡俊博:「経済学・人類学」

４．研究成果

以下では、上記「2.研究の目的」に記載された細目ごとに、各メンバーの主要な研究成果について記載する。

（1）新資料・未翻訳資料の整理によるレヴィナス哲学の全容の再検討

①『レヴィナス著作集』第 3 巻に収録されたレヴィナス青年期のロシア語著作、特に詩作品の調査によって、音（雑音）、多神教と偶像、死とエロスといった、レヴィナスの哲学著作とも通底する主題への関心が早くもこの時期に見られることを明らかにした（藤岡）。
②『レヴィナス著作集』第 1 巻の「捕囚手帳」および第 3 巻の未公刊小説の分析を通して、初期レヴィナスの重要概念である「イリヤ」に接続される既存の世界の「解体」という議論がすでに「捕囚手帳」でおこなわれていること、また、この同じ論点が未完の小説作品においては「エロス」を軸に主題化されていることを明らかにした（渡名喜）。
以上の①②については『レヴィナス研究』（創刊号、2019 年）にて公表した。

（2）新たな哲学史・思想史的な整理

①レヴィナスにおける自己性の問題に着目し、とりわけ初期著作における起源的な自己同一化が、『全体性と無限』における「自己のもとでの現前」へと変化していく過程を、フッサールの時間論との対照も踏まえて明らかにした（平岡）。
②マイネッケおよびローゼンツヴァイクのヘーゲル論を補助線として用いることで、レヴィナスの後期著作に現れる「利益内存在の価値論」とヘーゲルの「理性の狡智」の概念との思想史的関連を明らかにした（藤岡）。
③しばしば経験論への逆行とみなされるレヴィナスのフッサール批判について、シェリングの「形而上学的経験論」に着目することで、レヴィナスの「可傷性」の概念のうちにこれと比する「高次の経験論」（ドゥルーズ）を見いだせることを明らかにした（長坂）。
④『全体性と無限』の前後の時期に発表され『実存の発見』第二版に収録されたレヴィナスのフッサール論を取り上げ、そこで展開される感性的経験の分析、および、レヴィナスが解釈するかぎりでのフッサールにおける空間と身体の経験の分析を通して、レヴィナスのうちで現象学がまさに「経験」に根ざした生の営みという位置づけを有していることを明らかにした（平岡）。
以上の①については『レヴィナス研究』（創刊号、2019 年）、②については『レヴィナス研究』（第 2 号、2020 年）、③④については『レヴィナス研究』（第 3 号、2021 年）にて公表した。

（3）学際的・領域横断的研究の土台となるテーマ研究

狭義の哲学にとどまらない人文社会科学の諸主題や、より広い研究領域のうちでレヴィナスの思想がもちうる意義を、以下の各テーマに即して明らかにした。「レヴィナスと哲学史」（馬場・長坂）、「レヴィナスと倫理学」（村上）、「レヴィナスと現象学」（平岡）、「レヴィナスとフランス思想」（服部）、「レヴィナスと教育」（平石）、「レヴィナスと社会科学」（藤岡）、「レヴィナスとポスト・コロニアル」（小手川）、「レヴィナスと福祉」（渡名喜）。
これらについては、本研究課題の成果の一つとして準備を進めている『レヴィナス読本』（2022 年に刊行予定）にて公表する予定である。またその一部については、2021 年 9 月 12 日に開催された第 4 回レヴィナス協会大会「レヴィナスはどう対話／応用できるか」で公表した。

（4）国際的研究基盤の構築

国際的な研究ネットワークの構築のため、レヴィナス協会の主催・共催により、以下の研究集会を開催した。
①日本現象学会、京都大学大学院文学研究科宗教学専修との共催により、2019 年 11 月 16 日・17 日に早稲田大学にて、また 11 月 30 日・12 月 1 日に京都大学にて、国際シンポジウム「個と普遍　エマニュエル・レヴィナスと極東の思考」を開催した。大会には、日本、フランス、アメリカ、オーストリア、イスラエル、韓国から総勢 20 名におよぶ研究者が参加し、領域横断的なテーマ研究をめぐって活発な意見交換がおこなわれた。
②海外の研究者による講演会およびセミナーにて研究交流をおこなった。

①については、その成果を、杉村靖彦・渡名喜庸哲・長坂真澄（編）『個と普遍　レヴィナス哲学の新たな広がり』（法政大学出版局、2022 年）として刊行した。同論集には、メンバーによる以下の多様な主題を扱った論考が収められている。東方イスラエリット師範学校校長としてのレヴィナス（馬場）、レヴィナスにおける「他者」としての「東方」（渡名喜）、半出生主義とレヴィナス（小手川）、レヴィナスにおける享受と可傷性（平石）、レヴィナスとジャンセニスム（藤岡）、レヴィナスと「記憶不可能な過去」（長坂）、レヴィナスにおける音と記号（平岡）。

（5）そのほか

上記のレヴィナス協会に直接的に関連する研究集会や刊行物での成果公表とは別に、メンバーによる以下の単著が刊行されている。

①レヴィナスの専門研究から出発し、性差・人種・親子・難民・動物の命といった諸問題について哲学的な考察をおこなった（小手川正二郎『現実を解きほぐすための哲学』、トランスビュー、2020 年）

②レヴィナスの遺稿の調査・分析により、おもに 1930 年代から 40 年代までのレヴィナスの思想が『全体性と無限』へと発展していく過程をあとづけるとともに、遠隔テクノロジーなどの現代の技術的進歩や人間性の様態、動物論といった哲学一般に関連する問題について、レヴィナスの思想をもとに考察をおこなった（渡名喜庸哲『レヴィナスの企て』、勁草書房、2021 年）。

以上の研究成果により、本研究は、最新の資料調査を反映させることで狭義のレヴィナス研究を一層発展させるとともに、レヴィナスの思想を軸に広く人文社会科学全般に寄与しうる哲学的視座を提供することができた。また、本研究を通じて構築した国際的な研究基盤を今後も維持し、持続的な研究環境の整備に努めることで、本研究を、さらなる発展やインパクトをもたらす研究へとつなげていくことができると思われる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　8件）

１．著者名 長坂真澄	４．巻 3
２．論文標題 「レヴィナスと経験論」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『レヴィナス研究』	６．最初と最後の頁 2-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 平岡紘	４．巻 3
２．論文標題 「レヴィナスと空間の経験」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『レヴィナス研究』	６．最初と最後の頁 17-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 佐藤香織	４．巻 2
２．論文標題 「レヴィナスとローゼンツヴァイクにおける「物語」の問題」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『レヴィナス研究』	６．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 藤岡俊博	４．巻 2
２．論文標題 「理性の狡智と利益の狡智―ヘーゲル・ローゼンツヴァイク・レヴィナス」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『レヴィナス研究』	６．最初と最後の頁 12-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hiroshi HIRAOKA	4．巻 4
2．論文標題 "Le langage conditionne la pensee" : Le son et le signe chez Levinas	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Tetsugaku: International Journal of the Philosophical Association of Japan	6．最初と最後の頁 208-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 藤岡俊博	4．巻 1
2．論文標題 「レヴィナス青年期のロシア語著作について」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『レヴィナス研究』	6．最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 渡名喜庸哲	4．巻 1
2．論文標題 「イリヤとエロス 『レヴィナス著作集』から見えてくるもの」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『レヴィナス研究』	6．最初と最後の頁 8-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 平岡紘	4．巻 1
2．論文標題 「〈自己への現前〉から〈自己のもとでの現前〉へ ―レヴィナスにおける自己性の問いをめぐって―」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『レヴィナス研究』	6．最初と最後の頁 54-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　0件／うち国際学会　7件）

１．発表者名
村上暁子

２．発表標題
レヴィナスと倫理学

３．学会等名
レヴィナス協会第４回大会

４．発表年
2021年

１．発表者名
長坂真澄

２．発表標題
「レヴィナスと経験論」

３．学会等名
レヴィナス協会第３回大会

４．発表年
2020年

１．発表者名
藤岡俊博

２．発表標題
「理性の狡智と利益の狡智：ヘーゲル・ローゼンツヴァイク・レヴィナス」

３．学会等名
レヴィナス協会 第２回大会

４．発表年
2019年

１．発表者名
Hiroshi Hiraoka

２．発表標題
Le son et le signe : une reflexion sur la pensee raisonnable chez Levinas

３．学会等名
Colloque international: Le singulier et l'universel. Levinas et la pensee d'Extreme-Orient（国際学会）

４．発表年
2019年

１．発表者名
Yotetsu Tonaki

２．発表標題
Levinas et une pensee extreme sur l'Orient

３．学会等名
Colloque international: Le singulier et l'universel. Levinas et la pensee d'Extreme-Orient（国際学会）

４．発表年
2019年

１．発表者名
Tomokazu Baba

２．発表標題
Levinas directeur de l'ENIO et la tradition

３．学会等名
Colloque international: Le singulier et l'universel. Levinas et la pensee d'Extreme-Orient（国際学会）

４．発表年
2019年

１．発表者名
Koki Hiraishi

２．発表標題
Sensibilite et singularite: Autour du concept de jouissance dans Autrement qu'etre

３．学会等名
Colloque international: Le singulier et l'universel. Levinas et la pensee d'Extreme-Orient（国際学会）

４．発表年
2019年

１．発表者名
Shojiro Kotegawa

２．発表標題
Levinas contre l'anti-natalisme

３．学会等名
Colloque international: Le singulier et l'universel. Levinas et la pensee d'Extreme-Orient（国際学会）

４．発表年
2019年

１．発表者名
Masumi Nagasaka

２．発表標題
Levinas et "le passe immemorial" - Une etude par le biais de Kant et le dernier Schelling

３．学会等名
Colloque international: Le singulier et l'universel. Levinas et la pensee d'Extreme-Orient（国際学会）

４．発表年
2019年

１．発表者名
Toshihiro Fujioka

２．発表標題
De l'amour propre a l'interet -- Levinas et le jansenisme

３．学会等名
Colloque international: Le singulier et l'universel. Levinas et la pensee d'Extreme-Orient（国際学会）

４．発表年
2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名	４．発行年
杉村靖彦・渡名喜庸哲・長坂真澄（編）	2022年
２．出版社	５．総ページ数
個と普遍　レヴィナス哲学の新たな広がり	417
３．書名	
法政大学出版局	

〔産業財産権〕

〔その他〕
『レヴィナス研究』創刊号:のサイト。オンラインジャーナルを無料で閲覧できる。
https://sjeloffice.wixsite.com/levinas-jp/1-2019
レヴィナス協会のホームページ。国内で行われる主なレヴィナス研究関連イベントの情報発信を行っている。
https://sjeloffice.wixsite.com/levinas-jp

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	平石　晃樹 (HIRAISHI Koki) (00786626)	金沢大学・学校教育系・准教授 (13301)	
研究分担者	平岡　紘 (HIRAOKA Hiroshi) (00823379)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・研究員 (12601)	
研究分担者	馬場　智一 (BABA Tomokazu) (10713357)	長野県立大学・グローバルマネジメント学部・准教授 (23603)	
研究分担者	服部　敬弘 (HATTORI Yukihiro) (10770753)	同志社大学・文学部・准教授 (34310)	
研究分担者	小手川　正二郎 (KOTEGAWA Shojiro) (30728142)	國學院大學・文学部・准教授 (32614)	
研究分担者	渡名喜　庸哲 (TONAKI Yotetsu) (40633540)	立教大学・文学部・准教授 (32686)	
研究分担者	長坂　真澄 (NAGASAKA Masumi) (40792403)	早稲田大学・国際学術院・准教授 (32689)	
研究分担者	藤岡　俊博 (FUJIOKA Toshihiro) (90704867)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	

6．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	佐藤　香織 (SATO Kaori) (50839404)	神奈川大学・国際日本学部・非常勤講師 (32702)	
研究協力者	石井　雅巳 (ISHII Masami)	慶應義塾大学・通信教育部・科目担当員／非常勤講師 (32612)	
研究協力者	犬飼　智仁 (INUKAI Tomohiro)	立教大学・文学部・リサーチアシスタント（RA） (32686)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
「個と普遍　エマニュエル・レヴィナスと極東の思考　多文化時代における他者との共生－日本哲学とフランス哲学の対話」（日本現象学会／レヴィナス協会／京都大学大学院文学研究科宗教学専修 共催）	2019年～2019年

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関